

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年 2月 17日提出

所 属	職 名	氏 名
ビジネス研究科	教授	加登 豊
研 究 題 目	わが国製造業の企業行動に関する総合的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>申請書では、下記の4点に関する研究を行なうことを記述した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本企業のグローバル製品開発戦略 2 管理会計システムの変容と変容 3 管理会計システムの実施化研究 4 陳腐化した管理会計・原価計算・コストマネジメント知識の刷新 <p>上記1、2、3に関しては申請書にも記載した「逸品」ものづくり経営塾（略称「逸品塾」）をNPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク主催（ビジネス研究科後援）で2012年10月に神戸で設立し4年間の活動後、拠点を京都に移し活動を継続している。2014年9月にスタートした第6期については、参加企業数は15社である。活動の概要は「逸品塾」facebookページで一般公開している（http://www.facebook.com/ippinjyuku）。</p> <p>また、2014年12月にキャノングローバル戦略研究所主催の研究セミナー「21世紀の“日本発”を目指すイノベーション」において招待講演を依頼され、「京都の企業研究グループ「逸品塾」におけるオープンイノベーション」のテーマで報告を行うとともに、パネル討議者を務めた。</p> <p>3に関しては、「顧客収益性の統計的分析：管理会計研究へのマルチレベル分析の適用可能性」『原価計算研究』第38巻第2号、78-88ページ（新井康平・加登豊大浦啓輔との共同論文、査読付き論文）、2014. が掲載された。</p> <p>また、すべてに関するものとして、下記の報告を行った。</p> <p>加登豊・島吉伸「BSC導入方法論の検討：「逸品」ものづくり経営塾におけるオープンイノベーションの仕組み」日本原価計算研究学会第40回全国大会（神戸大学）自由論題報告、2014年9月20日。</p> <p>大浦啓輔・新井康平・加登豊（2014）「セルフサービング・バイアスが管理可能性の認識に与える影響」日本会計研究学会第73回全国大会（横浜国立大</p>	

学)自由論題報告論文)、2014年9月5日。

加登豊・井上康秀(2014)「バランス・スコアカード導入における促進・阻害要因の関係性について—会計システムの変化モデルに焦点をあてて—」(日本会計研究学会第73回全国大会(横浜国立大学)自由論題報告論文)、2014年9月6日。

加登豊・青木秀彰・井上康秀(2014)「バランス・スコアカードの導入研究—他システムの導入がBSC導入に与える影響について—」(日本原価計算研究学会第40回記念大会(神戸大学)自由論文報告原稿)、2014年9月5日。

(上記4報告の原稿は、査読付学術雑誌に投稿し、すべてが掲載が決定している)。

また、サービス関連研究の分野では、下記の報告を行った。

新井康平・大浦啓輔・加登豊・戸谷圭子・小沢佳奈・根本裕太郎。(2014)「顧客別収益の情報内容：マルチレベル分散情報の予測力」サービス学会第2回国内大会、於：公立ほこだて未来大学、2014/4/29。

戸谷圭子・新井康平・石井晃・大浦啓輔・大西立顕・小沢佳奈・加登豊・根本裕太郎・水野誠。(2013)「金融サービスにおける企業・従業員・顧客の共創価値測定尺度の開発(2013年プロジェクト進捗報告)」S3FIRE第4回フォーラム「サービス科学～現場起点のサービスイノベーション～」於：東京コンファレンスセンター品川、2013/11/19(招待講演)。

戸谷圭子・新井康平・石井晃・大浦啓輔・大西立顕・小沢佳奈・加登豊・根本裕太郎・水野誠。(2013)「金融サービスにおける企業・従業員・顧客の共創価値測定尺度の開発(2014年プロジェクト進捗報告)」S3FIRE第5回フォーラム「サービス科学はサービスの科学なのか?—価値創造への取り組み—」於：東京コンファレンスセンター品川、2014/11/4(招待講演)。

加えて、下記の研究成果を公表した。

新井康平・大浦啓輔・加登豊・戸谷圭子・小沢佳奈・根本裕太郎。(2014)「顧客別収益の情報内容：マルチレベル分散情報の予測力」『サービス学会第2回国内大会予稿集(電子版)』。